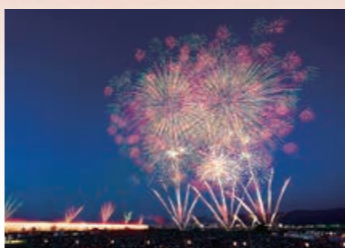


「米百俵」が、子どもたちにしつかり受け継がれていてうれしい。

—星野さん



③長岡空襲のあった8月1日に開催する平和フォーラム。昨年は星野さんが講演



④慰霊と復興、平和への祈りを込めて打ち上げている長岡まつり大花火大会



●**たかのり** 小・中学校を中心に「夢先生」と題して、講演と音楽ライブを一緒にした授業をしています。15年ほどで約60校を回りました。

●**市長** スポーツや何かが抜群なら夢も明確になりますが、みんながみんなそうではない。夢を持たなきゃだめだと言われると、その子は苦しいんです。「今はない」でもいいと思います。

●**たかのり** そうなんです。私はたまに父の影響でギターを持つようになりましたが、小学校で生のギターで盛り上がるの、音楽を肌で感じたりする機会は少ないですね。だから、子どもたちには、今は夢がなくても自信を持っていいよって話をします。そして、夢は幾つあってもいいし、楽しいことを感動に変えて自分のやりたいことを夢にしていこうって。

●**市長** ひなたのお二人からは、昨年4月に開校した岡南小学校の校歌を作っていたいただきました(写真⑤)。今まで、こんなに若い人が校歌を作ったことはなかったと思います。

●**星野** でも、それを頼む長岡市というのもすごく斬新ですね。

●**市長** 地元のみなさんからいい校歌を作りたいという強い思いで、希望が寄せられたんです。

●**たかのり** 話を聞いたときは「私たちがいいんですか」と言いました。でも、せっかくのお話しですし、一生に一度あるかないかの貴重な機会です。それならばと、地域のみなさんや校長先生からテーマをもらい、子どもたちからも言葉を出してもらって「みんなで作っていきましょう」と話をしました。「ひなた」らしく、できるだけわかりやすく、メロディーも覚えやすいものになりました。

●**星野** 地域のみなさんの声と想いが詰まった校歌、すばらしいですね。

●**市長** 初めて聴くようなすばらしい校歌で、開校式で子どもたちの元気いっぱいの歌声に感動しました。感動や喜びは、変化の早いこれからの時代を切り開いていくために必要な創造力を育てます。校歌と一緒に作ったことは、子どもたちにとって貴重な経験になったと思います。

●**市長** 初めに聴くようなすばらしい校歌で、開校式で子どもたちの元気いっぱいの歌声に感動しました。

●**市長** 初めに聴くようなすばらしい校歌で、開校式で子どもたちの元気いっぱいの歌声に感動しました。

●**市長** 初めに聴くようなすばらしい校歌で、開校式で子どもたちの元気いっぱいの歌声に感動しました。

支え合う市民に誇り

●**星野** 何か一大事が起きると人って

頑張れるし、普段とは違う大きな力が生まれます。

●**市長** 戊辰戦争で焼け野原となり、小林虎三郎が「米百俵」を言ったときと同じような精神状況や環境になっているんだと思います。

●**たかのり** 震災時、私はコンサートで名古屋にいて、震度2ぐらいでした。長岡に帰ってきて感じたのが、みんなが助け合い、一丸となって頑張っている姿でした。

●**市長** ニュースを見てみると、長岡のみなさんが「せつねえですて」って言うじゃないですか。でも、決して怒っていないわけじゃなくて、我慢する、諦めるところは諦めるんだけど希望を持って頑張る。「せつねえ」という言葉にその思いがこもっていて、長岡の人の心の温かさにも通じる気がします。

し掛けました。みなさん一様に「つらい人が何で『ありがとう、ありがとう』よく来てくれた」と言うんだろうって言うんですよ。

●**市長** 町内会や民生・児童委員、消防団員をはじめとした多くのみなさんが、自分たちの地域を守ろう、支え合おうと動いてくれたことを覚えていきます。そして今も、多くのみなさんがボランティア精神で活動してくれていることは長岡の自慢です。

●**星野** 長岡の人たちにとっては当たり前なのかもしれませんが、なかなかできるものではなく、すばらしい美徳ですよ。

市民挙げて「新しい米百俵」

●**市長** 昨年は開府400年で長岡の伝統、精神文化に注目が集まりました。今年からは、人材育成と未来への投資に取り組む「新しい米百俵」を市民のみなさんと一緒に始めます。

●**市長** 長岡をもっと活力あるまちにするには、子どもと若者をもっと元気にすることです。今年4月、長岡に中越地域初の看護大学となる長岡崇徳大学が開校し、4大学1高専になります。市



⑥毎年12月に開催する、ひなた主催の「長岡音むすびフェス」。大勢のアーティストが出演



⑤岡南小学校の新校歌を子どもたちに披露するひなた(中央がたかのりさん)

温かくて、大好きな長岡。音楽でもっと熱くしていく！—たかのりさん